

# 中学校 3年 道徳 学習指導案

## 「個人の権利を尊重する」

日 時：平成23年 月 日（ ）  
場 所：阿蘇中学校 第3学年教室  
授業者：教諭 山部 公彦

- 1 主題名 「生命の尊さ」 3—（1）  
「ドナーカード」（あかつき 自分をのばす p120～p121）

### 2 主題について

（1）本主題は、さまざまに議論される「命」を重く受け止め、その尊さを自覚し、自他の生命について考えることができるものである。そして、臓器移植を通して、個人の権利を尊重しようとする態度を育成することもねらいとしている。医療技術の発達により、新しい治療法や薬の開発など私たちの生活は日々進歩を続けている。その中で多くの成果を得ることができる反面、これまでには考えられなかった難しいケースに直面することもある。中でも臓器移植に関連する脳死判定問題は「死」に対する概念を大きく変えるという点で、なかなかコンセンサスがとれない課題である。「臓器の移植に関する法律」が施行されているが、いまもさまざまな思いや信条が錯綜している。しかし、自分のこととしてとらえることで、「生命の尊さ」をあらためて考えることができる。

（2）生徒の実態は以下のとおりである。（在籍数25名）

本学級は、男子12名、女子13名、計25名である。男女の仲もよく、グループ学習においても互いに意見を出し合える雰囲気がある。課題について取り組めている時とそうでない時の 差が大きく、自分の興味・関心に学習意欲が左右されやすい。自分に置きかえて考える場面や身近な題材、登場人物に共感することなどを通して内容項目のねらいを達成できる工夫を進めていかなければならない。

アンケートの結果は以下の通りである。

- ①脳死について知っている。（説明できる。）
- ②臓器移植について知っている。（説明できる。）
- ③ドナーカードについて知っている。
- ④ドナーカードを持っている。

以上の結果から、「脳死」や「臓器移植」についての知識は持っていることが分かる。しかし、詳しい説明やドナーカードの内容など具体的な理解については十分ではない。身近な問題になりつつある「脳死」や「臓器移植」について学習することは必要であり、自分ならばどうするか、家族の場合にはどうするかということを考えることは、自他の命を大切にすると同時に自他の権利を尊重することにもつながる大切な学習となる。

（3）資料について

脳死臓器移植について市民としての率直な感想が述べられた新聞投書を資料としたものである。娘をドナーにすることはできないが、移植を待ちながら亡くなっていく幼い子どもには涙してしまうという母親。経験上、自分はドナーになることを望むが、妻にはなっほしくないという矛盾に悩む医師。脳死臓器移植に対する賛否を問うのではない。この二人が抱く、相反した思いの中から、生命のかけがえのなさ、尊さがわかってくる資料で

ある。そこでかわされる議論がすべて、生命尊重に立脚していることに気付ける資料である。

(4) 指導にあたっては次の点に留意する。

① 道德教育の視点から

- ア 「脳死」についてその内容をおさえ、それに伴う「臓器移植」について考えを深めさせたい。「死」をどのようにとらえるかについても意見を出し合う場面を設定する。
- イ 「臓器移植」に賛成か反対かではなく、自分の場合、家族の場合にはどうか、ということを考えさせたい。
- ウ 個人で考える場面、班で話し合う場面を設定し、自分の言葉で表現できるように支援する。また、意見交換を通して、相互理解の深まりを図る。
- エ ビデオなどの資料を活用することで、自分のこととしてとらえられるよう工夫を図る。

② 情報モラル教育の視点から

- ア 本時は、「モデルカリキュラム」の目標「1. 情報社会の倫理」、「b 4-1: 個人の権利を尊重する」との関連を重視して展開する。
- イ ドナーカードは個人の意思をあらわすものであるが、その尊重について自分自身の場合、家族の場合を考えることを通して、情報社会の倫理、個人の意思の尊重について具体的に考えさせたい。
- ウ 自分の思いを正しく伝達すること、相手の思いを理解し、尊重することの意義について考える場面としたい。

③ 人権教育の視点

- ア お互いの命や権利は大切にされることを前提として、「死」や「臓器移植」について考えさせる。
- イ 意見交換や発言を大切にし、班での学習を通して、支持的風土づくりをすすめる。

### 3 本時の学習 (1 / 1 時間)

(1) 目標

自他の権利について考え、尊重する態度を育成する。

(2) 展開

過程	時間	学習活動	○主な発問と生徒の反応	教師の指導と評価	備考
導入	5	①ドナーカードを見て話し合う。	○このカードを知っていますか。 ○このカードは何を示すものですか。 ・知っている、知らない ・臓器移植の提供意志	・最近では、コンビニエンスストアにも置いてあることも紹介し、身近なものであることを伝える。	

展開	10	②資料を読んで話し合う。	○高井さんが「娘をドナーにできない」というのはなぜだろう。 ○新見さんが自分の臓器提供には肯定的なのに、妻の臓器移植には否定的なのはなぜだろう。 ・親にとって子どもは大切な存在だから ・脳死といっても、移植は考えられない ・自分の場合と妻の場合とでは、同じように考えられないから。 ・家族はそれだけ大切な存在	・親の立場や登場人物の心情について考えさせる。  ・自分自身の場合と家族の場合とでは、気持ちが違う部分をとらえさせる。そして、その理由はなぜなのかについて考えさせる。
展開	10	③脳死と向き合う家族が紹介されたビデオを視聴する	○どんな感想をもちましたか。 ・考えることがおこった。	・ビデオを通して、実際に脳死と向き合った家族について知り、自分のこととしてとらえさせたい。
展開	15	臓器移植の意思について、それぞれの立場で考えよう。(自分自身の場合、家族の場合)		
展開	15	④自分の場合と家族の場合について考える。 ・個人で考える。 ・班のなかで意見を話し合う。 ・班毎に発表を行う。	○ドナーカードの意志をどう判断するか、考えよう。 ・臓器移植を認める臓器移植は認めたくない ・一人一人の考えや意見を尊重すべき。 ・家族でもう一度話し合ってもいいと思う。	評価 自他の権利について考え、尊重することの大切さについて自分の意見を書くことができている。 (ワークシート・発言)
終末	10	⑤教師の話聞き、本時の感想を書く。	・難しい問題ではあるが、自分のこととして考えられた。	・情報モラルの指導内容と関連づけた生命尊重にかかわる話を行い、自他の生き方や権利についての考えを深められるようにする。

#### 4 モデルカリキュラムの位置づけ

情報モラル	道徳、各教科・特別活動 他
a2：発信する情報や情報社会での行動に責任を持つ。	国語 伝えたいことを伝えよう「新聞記者になろう」 目的や読み手を意識しながら分かりやすく書く。
b2：情報に関する自分や他者の権利を尊重する。	道徳 友情の大切さ「とべないホテル」 2ー(3) 友情・信頼「友達と互いに協力し合い、助け合っていこうとする心情を育てる。」  道徳 心の通い合い「『ありがとう』の言葉」

	<p>2-(1) 礼儀「あいさつの言葉の意味や礼儀で通い合う心の大切さを知り、だれに対しても真心を持って接しようとする態度を養う。」</p> <p>国語 材料の選び方を考えよう「4年3組から発信します」 学校や地域にあるものについて知らせるために取材し、相手や目的に応じて材料を選び、分かりやすく伝える。</p>
c2：情報社会でのルール・マナーを遵守できる。	<p><b>道徳 みんなの場所を大切に「日曜日のバーベキュー」</b> <b>4-(1) 規則の尊重・公德心「社会のきまりや約束を守り、公德を大切にしようとする態度を育てる。」(本時)</b></p> <p>社会 健康なくらしとまちづくり「ごみのゆくえ」 環境センターのしくみや働いている人々の努力や願い、ゴミ出しのルールやリサイクルについて考える。</p>
d2：情報社会の危険から身を守るとともに、不適切な情報に対応できる。	
e2：情報を正しく安全に利用することに努める。	
f2：安全や健康を害するような行動を抑制できる。	<p>道徳 健全な生活態度「目覚まし時計」 1-(1) 節度ある生活態度「時間を大切にし、規則正しい生活をしようとする心情を育てる。」</p> <p>道徳 よく考えることの大切さ「けいたい電話の落としあな」 1-(1) 節度ある生活態度「何ごとともよく考えて行動しようとする態度を育てる。」</p>
g2：生活の中で必要となる情報セキュリティの基本を知る。	
h：情報セキュリティの確保のために、対策・対応がとれる。	
i2：情報社会の一員として、公共的な意識を持つ。	<p>学級活動</p> <p>班活動や係活動などを友達と協力して行う。</p>